

# 高齢者等サポート拠点

## 【和野っこハウス】

### 1. 事業概要

【和野っこハウス】は、大槌町から委託を受けて、大槌町社会福祉協議会が運営しているサポートセンターです。総合相談や地域交流などを通して、仮設住宅に住む方々が交流の輪を広げ、安心して生活できるように支援することを目的に設置されました。子供から高齢者まで幅広い年齢層の住民に、気軽に集える場として、活用されています。

### 2. サービス内容

#### ① 総合相談（施設系生活支援相談員の配置）

- ・高齢者等の話し相手、見守り、相談対応
- ・関係機関との連携

#### ② 地域交流事業


- ・仮設住宅に住む住民同士の交流促進を図るためのイベント等の実施
- ・自治会活動や趣味活動が活性化するように、交流の場を設けて支援
- ・町が実施するニュースポーツ、介護予防事業等への協力


#### ③ 福祉事業

- ・概ね自立の高齢者等を対象としたサロン（デイサービス）の実施  
週3回 10時～15時  
遠方の送迎があります  
昼食提供の日があります（1食 300円）  
入浴もできます

#### ④ 生活支援活動

- ・ICTいわて“おげんき”みまもりシステムを、和野地区をモデル地区として岩手県立大学と連携して取り組んでいる。
- ・安否確認のため、要援護者宅を訪問している。
- ・町の委託事業で、配食サービスの調理及び配達（一部）を実施行っている。

期日	内容	和野っこハウスの動き
平成 23 年 9 月 1 日	サポートセンター和野っこ ハウス 開所	<p>・職員体制 6 名 (LSA5 名・看護師 1 名) 子供から大人まで、年齢や対象を絞らない幅広い層の住民が自由に利用できる、コミュニティの場として開放</p> 
	ボランティア団体によるイベントの開催	<p>ANA グループカフェ「バーベキュー・航空教室など」 アガペーCGN「和太鼓演奏会・コーラス」 パキスタン「<span style="background-color: gray; color: gray;">          </span>さんのカレー」 NPO 遠野まごころネット「お茶会・手芸など」 神戸大学「負けない象作り・足湯」 くらしまちづくりネットワーク横浜「住民との交流会」 盛岡友の会「手仕事・バザー」 花園大学「炊き出し・説法など」 清泉女学院「おやき・そば茶・学生との触れ合い」 その他、たくさんのボランティアに活動していただきました。</p>
10 月～	「きのっこサロン」開始	<p>週 2 回 (火・金) 10:00～15:00 昼食 1 食 300 円で提供</p> <p>県内外からのボランティア団体による活動、住民と一緒に編み物、手芸、郷土料理作り等を実施。職員が一所懸命作る昼食は、毎回大好評です。</p>

<p>平成 23 年 10 月～</p>	<p>「和野っこハウスだより」 発行</p>	<p>毎月、翌月のイベント情報などを掲載し、月末に発行、仮設団地の掲示版に掲示している。</p>
<p>11 月 ～12 月</p> <p>平成 24 年 5 月～</p>	<p>地元住民ボランティアによる活動開始</p>	<p>和野っこフラガール 「健康体操を兼ねたフラダンス」</p>  <p>大槌歌謡研究会 「カラオケ教室」</p> <p>大槌民謡保存会 「民謡ショー」</p>
<p>1 月 16 日</p>	<p>“おげんき” みまもりシステム運用開始</p> <p>「血圧測定器」設置</p>	<p>“おげんき” みまもりシステムは、電話を使って自ら健康状態を発信してもらい、併せて安否確認を行うシステムです。和野地区の単身高齢者、高齢者のみの世帯を対象に岩手県立大学と連携し開始した。(初回登録者 7 名での開始)</p> <p>血圧測定器が設置され、測定者のデータが蓄積されて、長期的な健康管理ができるようになりました。</p>
<p>5 月～</p>	<p>手づくり作品販売開始</p>	<p>サロンで作った手芸作品を、ボランティアさんが購入したことをきっかけに、販売することになりました。住民のみなさんは、作品作りに楽しみと生きがいを持って熱心に取り組んでいます。</p>

<p>平成 25 年 4 月～</p>	<p>配食サービス開始</p>	<p>町受託事業で配食サービスを実施。 職員 1 名、食改協ボランティア 2 名で調理をしている。 (配達は主に生活支援相談員が担当し、和野地区は、センター職員が配達しています) 手づくりのお弁当は彩りも良く好評です。</p>
<p>5 月～</p>	<p>「茶ちゃサロン」開始</p>	<p>・毎週水曜日 10:00～15:00 昼食なし 福祉事業デイとしてのサロンを増やす目的で開始。 各自お弁当を持参しゲーム・お茶会・カラオケを楽しむなど、自由に過ごしています。</p>